

## 板橋区における障がい者虐待の通報等受付状況

### 1 受付場所別の内訳

受付場所	令和 3 年度	令和 4 年度（12 月末）
虐待防止センター	2 3	1 4
虐待電話相談窓口（夜間等）		6
福祉事務所（3 ケ所）	6	5
健康福祉センター（5 ケ所）	3	2
障がい政策課	1 2	1 0
予防対策課	0	0
その他（東京都、警察等）	0	1
合 計	4 4	3 8

### 2 相談・通報・届出者の内訳

相談・通報・届出者	令和 3 年度	令和 4 年度（12 月末）
障がい者本人	1 3	1 0
家族・親族	3	1
近隣住民・知人	3	2
福祉サービス関係者	1 7	2 1
医療関係者	2	2
行政・教育機関	4	1
その他（労働局、警察、元支援員等）	2	1
合 計	4 4	3 8

### 3 被虐待者の障がい別内訳（令和 4 年度については令和 4 年 9 月末現在の件数）

※ 通報時本人より申告のあった種別（重複障がいは、それぞれに計上）

障がい	身体		知的		精神(発達含)		不明	
年度	R 3	R 4	R 3	R 4	R 3	R 4	R 3	R 4
人数	1 1	9	2 3	1 2	1 7	1 8	0	1

### 4 虐待者の内訳

虐待者	令和 3 年度		令和 4 年度（12 月末）	
	総件数 （実件数）	虐待認定 件数	総件数 （実件数）	虐待認定 件数
養護者	2 4	6	2 0	4
障害者福祉 施設従事者等	1 3	1	1 5	1
使用者	1	0	1	0
その他	6		2	
合 計	4 4	7	3 8	5

※虐待認定件数について、12 月末において、調査中のものは含めない。

5 令和4年度 通報・相談のうち、虐待認定したケース事例※抽出（虐待程度については、「資料1-2 虐待の程度一覧表」参照）

NO	虐待種別		内容	状況・対応等
1	養護者	放棄・放置	経済的理由、障がいに対する知識、介護力不足等の理由により、介護者である夫が本人に適切なサービスを受けさせていない状況を確認した。	<p>【緊急性：有】</p> <p>適切な介護を受けられておらず、褥瘡<sup>じよくそう</sup>の悪化を確認。早急に処置が必要な状況であったことから、緊急性有りと判断した。</p> <p>【虐待認定：有】</p> <p>本人の障がい特性上介護が困難な状態であること、世帯で生活が困窮しており、適切な医療機関の受診や外部サービスの介護ケアを受けていないことを把握した。一方で、支援機関等からの助言に対して拒否等の経緯があり、適切なケアを怠ったと判断し、虐待有りとした。</p> <p>【虐待程度：重度～中等度】</p> <p>十分な介護を受けられないことによる重度の褥瘡<sup>じよくそう</sup>等が生じていたため、重度～中等度と判断した。</p> <p>【対応】</p> <p>褥瘡<sup>じよくそう</sup>の悪化による処置が必要な状況であったことから、早急に医療の受診に繋がった。また、受給可能な公的サービス等を案内。サービスに繋がるまで助言、指導、定期訪問等で対応した。</p>
2	養護者	身体的	本人宅に訪問したところ、手の甲の痣を確認したため、聞き取りを実施。手の甲の痣の原因は不明であったが、兄弟から本人への暴力が発覚した。	<p>【緊急性：有】</p> <p>日中通所しており、日常生活の安全は、保障されている状況であったが、身体的な暴力行為のため、緊急性有りと判断し、早急に家族、本人に聞き取り調査を実施した。</p> <p>【虐待認定：有】</p> <p>介護ストレスを理由に、感情的になり、叩く、蹴るなどの行為を兄弟が認めているため、虐待有りと判断した。</p> <p>【虐待程度：軽度】</p> <p>暴力による痣は確認できず、生命、心身の健康、生活に著しい影響は生じておらず、頻度状況（年数回）より、軽度と判断した。ただし、今後の生活に影響を</p>

				<p>及ぼすおそれがある状況。</p> <p>【対応】</p> <p>現在の生活を変えたくないという本人意向に基づき、養護者に福祉サービス等追加、医療機関と連携等の助言を行い、訪問を通じた継続案件として対応。</p>
--	--	--	--	--

6 令和4年度 通報・相談のうち、虐待認定以外のケース事例※抽出

NO	虐待種別		内容	状況・対応等
1	養護者	心理的	家族から身体的暴力、暴言による心理的虐待を受けているとのことで、本人より届出。	<p>【緊急性：無】</p> <p>聞きとり状況により、身体的暴力行為の痕等は確認されず、日中通所先等からの情報収集より、日常生活の安全は保障されていることを確認。緊急性無しと判断した。</p> <p>【虐待認定：不適切支援】</p> <p>本人意向により養護者への聞き取りができなかったため、支援関係機関等で家族の情報を収集。養護者からの叩く行為等は確認できた一方で、本人からも高齢の養護者への暴言や叩く行為を確認した。明らかに一方的な行為ではないことを把握したため、不適切支援とした。</p> <p>【対応】</p> <p>相談時点で、家を離れてグループホームの入所意向があったため、グループホーム入所を早急に進めていくということで検討。結果として、グループホームの利用に繋がった。</p>
2	社会福祉施設従事者等	心理的	支援員が、本人に対して、暴言と思われる発言や、高圧的な態度で接した。	<p>【緊急性：無】</p> <p>本人の日常生活の安全は、保障されている状況であったため、緊急性無しと判断した。一方で、事業所内で事実確認、虐待防止の指導などについて、対応できていない状況であったため、早急に聞き取りを行った。</p> <p>【虐待認定：不適切支援】</p> <p>言い分に相違があり、事実は確認できなかったが、障がい特性に応じた支援力不足が明らかであったこと、組織内で支援方法に関する情報共有がなされていない状況であったことなどを確認。不適切支援と判断した。</p> <p>【対応】</p> <p>再発防止に向け、助言・指導し、事業所より今後改善に取り組む内容の報告を受けた。</p>